



近畿中国森林管理局京都大阪森林管理事務所発表の様子

全国の国有林野事業職員が、現場での研究成果や取組を報告する業務研究発表会。事業実行を通じて得られた森林の整備手法や管理技術、森林環境教育での工夫、地域と連携した取組などが発表されました。

# 平成22年度 国有林野事業 業務研究発表会



発表会場の様子



質疑応答

林野庁では、国有林野事業の実行を通じて得られた技術開発等の取組成果を報告するとともに、広く普及するため、全国の森林管理・署から選ばれた課題を発表する国有林野事業業務研究発表会を、毎年開催しています。

本年度は、11月17日、森林技術部門、森林ふれあい部門及び国民の森林部門の3部門、計25課題の発表が行われました。

森林技術部門では、国有林内の貴重な森林資源の保全、低コスト・効率的な作業システムの実現に向けた取組、森林管理のための情報システムの改善等に関する11課題が、森林ふれあい部門では、より効果的な森林環境教育や伝統文化継承のための森林再生等に関する7課題が発表されました。

また、昨年新設した国民の森林部門では職員の意識改革や地域と連携した獣害対策など、多様な取組が発表されました。

発表後の質疑では、審査委員から多くの質問が出され、発表者からは苦労した点や地域との交流方法など、より具体的な話も披露されました。

ここでは、林野庁長官賞(最優秀賞、優秀賞)を受賞した発表課題を紹介します。

今回発表された全課題は、研究発表集にとりまとめ、全国の森林管理局・署に配布して現場業務の一層の効率化、森林環境教育の充実等に活かしていきます。また、民有林への普及を図るべく都道府県等に広く紹介していく予定です。

### ◆森林技術部門(最優秀賞)

## 国有林GISを活用した森林管理 (フリーデータベース・Mobile Mapperを利用して)



平成16年度に  
国有林GISが  
導入され、各種  
調査の図面作成  
や貸付地管理へ

の活用など、様々な利用方法が検討  
されています。今回は、国有林G  
ISのフリーデータベース・ポイント  
情報等を活用し、GISの幅広い利  
用方法を考察しました。

- (1)ポイント情報機能を利用した森  
林情報(フィールドマーク)の蓄積  
ポイント情報機能のシンボル  
を、実用性の高いアイコンに変更  
し視覚的に情報を把握できる内  
容に改善しました。
- (2)フリーデータベースを活用した  
貸付地管理  
貸付地の情報をフリーデー  
タベースに取り込むことで、借受人  
や契約更新時期・貸付箇所から  
の位置検索・台帳検索等が可能  
になります。
- (3)SHAPEファイルによる携帯型  
GPSとの連携



※GIS : Geographic Information System (地理情報システム)  
GPS : Global Positioning System (全地球測位システム)  
SHAPEファイル : GISで広く利用されている地図データのデータ形式

外部(国土地理院等のホームペー  
ジ)からSHAPEファイル形式の  
等高線データを取り込み、携帯型  
GPSで表示することで、官行造  
林地でも活用が可能になります。  
今後も、労力の軽減と業務の円滑  
化のため、システム改善に取り組  
んでいきます。

近畿中国森林管理局  
三重森林管理署

上野 博幸

### ◆森林技術部門(優秀賞)

## コスト1/2を目指した誘導伐システム (帯状伐採による複層林施業)の開発



九州の国有林  
のスギ・ヒノキ

人工林は、今後  
10年間でその約  
半数が誘導伐の  
対象林分となり  
ます。これらの  
人工林を多面的  
機能を有する複  
層林等へと誘導



するため、伐採・搬出・更新・保育  
の効率化・低コスト化に向けた技術  
開発に取り組むこととし、平成19  
年度に循環型の帯状三段林の伐区を設  
定し、伐採後に1500本/haの  
植栽を実施しました。

- (1)低コスト作業路の開設工期は37  
9m/人・日でした。また、耐久  
性が高く投資効果も十分見込む  
ことができると考えられます。
- (2)生産コストは、高性能林業機械と  
低コスト作業路の組み合わせに  
より、従来型と比較して約50%  
削減できました。
- (3)更新コストは、地拵・植付・苗木



伐採後の試験地遠景

伐を合わせて36%削減できまし  
た。  
今後、保育については、下刈・除  
伐等を含めたトータルコストの50%  
削減を目指すとともに、低密度植栽  
及び耐陰性スギ植栽による成長量や  
形質的な変化について、経過を観察  
していきます。

九州森林管理局  
森林技術センター

釜 稔  
平松 大志



◆森林ふれあい部門(最優秀賞)

裏谷原生林森林環境教育の取組



10年前から実施している、豊川市野外活動センターを訪れる児童を対象とした裏谷原生林自然観察案内の継続のため、当所主体の実施体制を改善し、当所

とNPO法人、教育委員会等が「協働」して取り組む体制を作りました。

案内を効率化するため「実施要領」を定め、不足する案内人は学校が有償でNPO法人へ依頼することになりました。また、個別に行っていた学校への説明や参加申し込みを教育委員会で行うこととしました。

これにより、今まで以上に案内プログラムの実施に力を入れることができるようになり、平成21年度には新しい案内コースを設定し、マニュアルの作成など内容の充実と効率化を図りました。さらに、NPO法人は経済的負担の軽減が図られることも

に、学校側は自然観察案内の継続性を確保できました。

「子どもたちに森林環境教育を提供する」という目的のために「協働」して体制づくりを行った結果、効率化しつつも、より質の良い森林環境教育が提供できるようになり、各団体間の信頼感も強くなりました。



自然観察案内の様子

中部森林管理局  
愛知森林管理事務所  
鈴木 永江  
千村 知博

◆森林ふれあい部門(優秀賞)

銀閣寺山国有林におけるマツ林再生の取組  
～大文字保存会との連携を中心として～



大文字保存会の共有林に隣接する銀閣寺山国有林は、マツクイムシ被害により松林が著しく減少しつつあることから、地元関係者と連携してマツ林再生に

向けて様々な取組を実施してまいりました。

(1) 「五山の送り火」の一つである「大文字送り火」へのアカマツ伐倒処理木の提供

(2) 大文字保存会と連携した除伐、地掻きの実施

(3) 地元企業のボランティアや地元中学生の協力による除伐、地掻き、マツの植樹

(4) マツクイムシ被害の拡大を抑制するための伐倒駆除等

このようなマツ林再生に向けた取組は、伝統行事である「大文字送り火」にとって重要なマツ林を守ると

もに、送り火に必要な資材を提供するなど、伝統文化の継承に貢献することができました。また、これらの取組は、様々な関係者にマツ林再生の重要性を理解していただく貴重な機会となりました。



地元企業のボランティアとの地掻き作業終了後の一枚

近畿中国森林管理局  
京都大阪森林管理事務所  
白木 投和  
特定非営利活動法人  
大文字保存会  
長谷川 綉二

## ◆国民の森林部門（最優秀賞）

### 国民視点を意識した 上越森林管理署の取組



農林水産省  
改革の取組として、当署では職員  
の意識改革をより確実なもの

にするため、また、国民から親しまれる書を目指し、職員一丸となつてアイデアを出し合い様々な取組を行うこととしました。

(1)事務室のイメージアップについて

「ネイチャークラフト展示」、「森の本棚」、「森の写真館」等の配置により、来庁者から「署が明るくなつたね」、「このクラフトを販売して欲しい」との

声があるなど、好評を得ることができました。

(2)情報発信について

は、イベント結果などをHP上にて平成21年10月から1年間で合計68回（入札公告等契約関係を含まない）



森林管理署内の「森の写真館」

更新した結果、「次を楽しみにしているよ」などの声があり、署の取組が地域の方々に興味を持っていただけるようになりました。

(3)自主企画のOJTでは、職員のと和を強くするとともに意識改革の第一歩となり、そのことが、この取組の根幹となりました。

(4)「接遇向上会議」では国民目線に一番近い臨時職員の方と意見交換を行うことにより、普段気が付かない部分を気づくことができました。

(5)地元ニーズの把握などは、職員が一丸となつて積極的に取組んだ結果、地域との繋がりを一層深めることができました。

今後も職場の「誰か」ではなく「みんな」が常に国民視点を意識して、日々の業務を行うよう取り組んでいきたいと思ひます。

関東森林管理局  
上越森林管理署

栗田 喜則

## ◆国民の森林部門（優秀賞）

### 崩れにくい低コスト路網の取組



熊本南部森林  
管理署では、森  
林整備、木材の  
安定供給に積極  
的に取り組むた

め、「崩れにくい低コスト路網」作設推進のため、署内に3つのプロジェクトチームを編成しました。それぞれのプロジェクトチームが連携をとりながら、全職員が精力的に取り組み、民・国連携した現地検討会等を開催しています。

(1)プロジェクトチームの編成

① 長期経営戦略プロジェクトは、経営計画期間内に行う間伐等の指定箇所路網整備を念頭に置いた実行計画の検討。

② 生産・販売プロジェクトは、生産・

販売事業の進行管理、事業連携・路網作設時期等を検討。

③ 路網整備プロジェクト



民・国連携の路網現地検討会

クトは、路網の線形、作設方法等の検討、作設後の検証、得られたデータの検討。

(2)民・国連携した現地検討会の実施  
各事業体の路網作設技術のレベル向上を目的に、モデル路網の見学・検証、オペレーターによる路網作設実演等、民・国連携した現地検討会を実施。

(3)作業路の検証  
事業実行後にプロジェクトメンバーによる作設後の路網についての検証を実施。

このようなプロジェクトチームの活動により、路網整備の重要性を職員が理解することはもとより広く発信するとともに、現地実態に対応した効果的な事業実行を常に改善を加えながら追求することにより、各事業体の技術・意識の向上を図りました。

九州森林管理局  
治山課

木倉 浩二  
(元 熊本南部森林管理署)